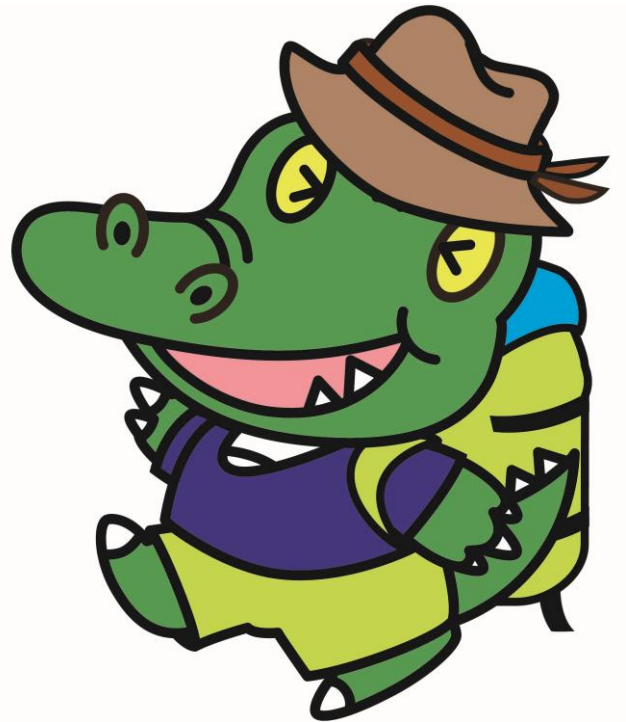


翻訳資料の 探し方

- 1 翻訳資料とは何か
 - 1-1 翻訳資料の特徴
 - 1-2 タイトルを手がかりとして探す
 - 1-3 著者名を手がかりとして探す
- 2 外国語を邦訳した資料
 - 2-1 データベース
 - 2-2 参考図書
- 3 邦訳資料の外国語原典
- 4 日本語を外国語訳した資料
 - 4-1 データベース
 - 4-2 参考図書



1 翻訳資料とは何か

1-1 翻訳資料の特徴

翻訳資料は、ある言語で書かれた資料が、別の言語に翻訳されたものです。「翻訳」の辞書的な定義として、デジタル大辞泉は、「ある言語で表された文章を他の言語に置き換えて表すこと。また、その文章。」を第一に挙げています。この定義は的確で中立的ですが、実際に翻訳に従事している翻訳家の方々は、しばしば翻訳の創造性を強調しています。たとえば、翻訳家の鴻巣友季子氏は、「研究者や評論者は作品を読んで、自分の論文なり批評なりを書きますが、翻訳者も原文を読み込んで解釈をします。翻訳とは一種の批評なのです。」と述べています（鴻巣友季子『翻訳ってなんだろう？』ちくまプリマー新書、p.11【[阪大所蔵あり](#)】）。この一節は文学の翻訳を念頭に置いたものですが、翻訳が単なる言葉の置き換えではなく、訳者による創造という要素を含んでいるということは、翻訳資料全般に共通する重要な特徴であるといえます。

このことを踏まえて、①翻訳資料をタイトルを手がかりとして探す場合と、②著者を手がかりとして探す場合の基本的な考え方を概説します。

1-2 タイトルを手がかりとして探す

タイトルを手がかりとして翻訳資料を探す場合に問題となるのが、翻訳によるタイトルの揺れです。図書館の目録では、もとのタイトルを注記することによって、この問題を部分的に解決しています。また、目録に「著作」という概念を導入することによって、より根本的な解決を目指す試みも行われています。

たとえば、米国の法哲学者マーサ・ファインマンの *The Neutered Mother, the Sexual Family and Other Twentieth Century Tragedies* という本は、タイトルを直訳すると「中性化された母親、性的な家族、その他の 20 世紀の悲劇」となりますが、邦訳版では『家族、積みすぎた方舟』（学陽書房、2003 年）【[阪大所蔵あり](#)】というタイトルが付けられています。このように、翻訳資料を探す際には、タイトルを手がかりとすることが難しい場合があります。

〈もとのタイトルの注記〉

図書館の目録には、必ず資料のタイトルが記入されています。翻訳資料の場合は、翻訳後のタイトルを記入するだけでなく、もとのタイトルを「別タイトル」の欄などに注記することによって、検索しやすくすることが多く行われています。附属図書館でも、多くの翻訳資料にもとのタイトルを注記しています。

権利の関係上、書影を隠しています

この情報を出力する

印刷
メール送信
ファイル出力
EndNote Online(RIS)出力
Mendeley出力

このページのURL

<図書>
家族、積みすぎた方舟：ポスト平等主義のフェミニズム法理論 / マーサ・A.ファインマン著；速水葉子, 穂田信子訳
カソク ツミスギタ ハコブネ：ポスト ビョウドウ シュギ ノ フェミニズム ホウリロン

出版情報

東京：学陽書房，2003.2

大きさ

306, 65p；20cm

本文言語

日本語

書誌ID

2003559782

NCID

BA61142749 [CINII](#)

所蔵情報を非表示

配架場所

総合図-A棟3階 学芸用図書

入館

324.9

人文現代日本語

431386105X

書誌詳細を非表示

別書名

原タイトル:The neutered mother, the sexual family and other twentieth century tragedies

一般注記

原書(Routledge, 1995)の全訳

阪大 OPAC では、「別書名」欄にもとのタイトルを注記しています。

〈「著作」概念の導入〉

図書館の目録に翻訳資料ともとの資料を包摂するより大きな単位を導入することによって、翻訳にともなうタイトルの揺れなどの問題を解決しようとする国際的な潮流もあります。（日本の図書館で現在使われている目録のルールも、この潮流の下で策定されたものです。）

この潮流を牽引しているのは、国際図書館連盟（IFLA）が「書誌レコードの機能要件」（FRBR）において提唱した、「実体関連分析」という考え方です。FRBR では、資料は、抽象度が高い順に、著作（知的・芸術的な創造の内容）、表現形（著作を特定の言語等で表現したもの）、体現形（表現形を書籍や電子ファイル等で物理的に実現したもの）、個別資料（体現形の複製のうち任意の一つ）という 4 つの異なる階層で捉えることができ、この順に具体化されていくと考えられています。

翻訳資料の探索との関係で重要なのは、「著作」という概念が導入されたことです。この概念によって、翻訳資料ともとの資料は、言語という表現形のレベルでは別の資料だけれども、内容的には同一の著作であると考えられることができるようになりました。したがって、「著作」という単位で目録を検索することができるようにすれば、翻訳資料ともとの資料を一挙に見つけ出すことができるようになったのです。「著作」という単位で検索することができる目録は日本ではまだ普及していませんが、世界規模の総合目録である「[WorldCat](#)」では、「著作」単位の検索を行うことができます。（下図は *The Neutered Mother, the Sexual Family and Other Twentieth Century Tragedies* の「著作」単位の画面）



■『書誌レコードの機能要件』（日本図書館協会、2004 年）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・インターネット上で [PDF 版](#) も公開されています。

■『「日本目録規則 2018 年版」入門』（日本図書館協会、2022 年）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・FRBR の考え方を取り入れた、日本の図書館で現在使われている目録のルールの解説書です。

1-3 著者名を手がかりとして探す

著者名を手がかりとして翻訳資料を探す場合に問題となるのが、外国語の名前を音写する際の表記の揺れです。図書館の目録では、この問題を、著者名の「典拠形」（目録上の標準となる表記）を定めることによって解決しています。

たとえば、19 世紀の哲学者ショーペンハウアーの名前は、日本語では「ショーペンハウエル」と音写されることもあります。このとき、「ショーペンハウアー」で検索しても、「ショーペンハウエル」という表記を採用している資料を検索することはできません。そのため、図書館の目録では、著者の欄に記入する

名前の表記を「Schopenhauer, Arthur, 1788-1860」で統一し、音写の揺れにかかわらず検索することができるようになっています。（「ショーペンハウエル」などの音写の揺れも、資料を識別するための重要な情報なので、典拠形とは別に目録に転記しています。）国内の図書館の目録における著者名の典拠形は、国立国会図書館に準拠することが一般的です。

権利の関係上、書影を隠しています

この情報を出力する

印刷
メール送信
ファイル出力
EndNote Online(RIS)出力
Mendeley出力

このページのURL

<https://opac.library.osaka-u.ac.jp/opac/>

コピー

<図書>

読書について / ショーペンハウアー著 ; 鈴木芳子訳
ドクシヨ ニツイテ
([光文社古典新訳文庫](#) ; [KBシ1-1])

出版情報 東京 : 光文社, 2013.5

大きさ 194p ; 16cm

本文言語 日本語

書誌ID 2004282794

NCID BB12409770 [Cinii](#)

所蔵情報を非表示

配架場所	巻 次	請求記号	所蔵状況
理工学部-東館2F文庫新書			

書誌詳細を非表示

別書名 原タイトル:Selbstdenken ; Über Schriftstellerent
異なりアクセスタイトル:読書について

一般注記 ショーペンハウアー年譜: p186-191
主著者立附: p193, 194

著者標目 Schopenhauer, Arthur, 1788-1860
鈴木, 芳子(1957-) <スズキ, ヨシコ>

阪大 OPAC では、「著者標目」欄に著者名の典拠形を記入しています。

■Web NDL Authorities (国立国会図書館、<https://id.ndl.go.jp/auth/ndla/>)

・国立国会図書館の目録で使われている典拠形を検索することができます。検索結果から、国立国会図書館で所蔵されているその著者の作品一覧にアクセスすることもできます。

2 外国語を邦訳した資料

2-1 データベース

外国語の資料を日本語に翻訳した資料がないかをデータベースで調べる際は、タイトルや著者名を手がかりとして検索を行います。タイトルを手がかりとする場合は目録に記入された注記、著者名を手がかりとする場合には目録におけるその著者名の典拠形が、それぞれ検索の助けとなります。いずれの場合でも、タイトルや著者名の綴りが間違っていないか十分に確認するようにしましょう。

附属図書館が所蔵している範囲で資料を探す際には、附属図書館の OPAC で検索すれば十分です。附属図書館が所蔵していない資料も検索したい場合は、以下のデータベースで検索することができます。

■国立国会図書館サーチ (国立国会図書館、<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>)

・国内の出版物を網羅的に収集している国立国会図書館の蔵書を検索することができます。

・著者名の典拠形を手がかりとして検索する場合は、「Web NDL Authorities」からその著者名の典拠形を調べることができます。

■CiNii Research (国立情報学研究所、<https://cir.nii.ac.jp/>)

・国内の大学図書館が所蔵している資料を横断的に検索することができます。

3

2-2 参考図書

■『翻訳図書目録』（日外アソシエーツ）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・明治期から2019年までの翻訳図書について、著者名、原書名、訳書名から調べることができます。
- ・書名索引のため、単行本に収録されている短編などのタイトルで調べることはできません。ただし、本文中に内容細目として収録作品のタイトルが記載されている場合があります。

■『全集・合集収載翻訳図書目録』（日外アソシエーツ）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・『翻訳図書目録』の姉妹本で、アンソロジーや全集に収録された作品を調べることができるものです。

■『人文社会翻訳記事論文索引：1981-1990』（日外アソシエーツ、1999年）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・1981年～1990年に雑誌等に翻訳掲載された論文・記事を、著者名、訳者名、事項名から調べることができます。

〈翻訳文学に関連する参考図書〉

■『翻訳小説全情報』（日外アソシエーツ）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・1945年～2021年に刊行された翻訳小説を著者名順に掲載しています。書名索引と訳者名索引も付いています。また、1945年～2006年を対象とした「作家名索引」も作成されています。

■『英米小説原題邦題事典』（日外アソシエーツ）【[阪大所蔵あり](#)】

■『海外小説（非英語圏）原題邦題事典』（日外アソシエーツ、2015年）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・翻訳がある海外小説のもののタイトルと邦訳版のタイトルを作家名から調べることができます。

■『中国古典文学案内』（日外アソシエーツ、2004年）【[阪大所蔵あり](#)】

■『西洋古典文学案内』（日外アソシエーツ、2011年）【[阪大所蔵あり](#)】

■『西洋近代文学案内』（日外アソシエーツ、2021年）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・著者名順に主な著作やその著者に関する研究文献をまとめたものです。

■『世界文学綜覧シリーズ』（日外アソシエーツ）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・「内容綜覧」、「作家名綜覧」、「作品名綜覧」から構成されています。第一期の収録範囲は1926年～1981年、第二期の収録範囲は1986年～1997年、第三期の収録範囲は1998年～2004年です。

■『図説翻訳文学総合事典』（大空社、2009年）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・「日本翻訳文学史」、「原作者と作品」、「研究編」から構成されています。

■『明治・大正・昭和翻訳文学目録』（風間書房、1972年）【[阪大所蔵あり](#)】

- ・国立国会図書館が所蔵する翻訳文学の目録です。二部構成で、第一部が1912年～1955年までの翻訳書を著者名順に収録しています。第二部は明治期の文学以外の翻訳書や新聞・雑誌に掲載されたものを出版年順に収録しています。

■『文芸雑誌初出総覧：翻訳小説編 1945-2010』（日外アソシエーツ、2011年）【[阪大所蔵あり](#)】

・文芸雑誌に掲載された翻訳小説を調べることができます。著者名索引と訳者名索引が付いています。

■笠原勝郎『英米文学翻訳書目』（沖積舎、1990年）【[阪大所蔵あり](#)】

・英米文学の邦訳作品と、各作家に関する研究文献をまとめたものです。

■『明治期翻訳文学総合年表』（大空社、2001年）【[阪大所蔵あり](#)】

・『明治翻訳文学全集』の別巻年表です。明治期の新聞雑誌に発表された西洋文学の翻訳作品を、発表年月日順にまとめています。

■福田なを編『明治・大正・昭和邦訳アメリカ文学書目』（原書房、1968年）【[阪大所蔵あり](#)】

・1868年～1968年に邦訳されたアメリカ文学の書名を作家順にまとめたものです。

■『近代日本における西洋文学紹介文献書目』（悠久出版、1970年）【[阪大所蔵あり](#)】

・1885年～1889年の雑誌を対象として、翻訳された西洋文学作品をまとめたものです。

■『児童文学翻訳作品総覧』（大空社、2005～2006年）【[阪大所蔵なし](#)】

・明治期から平成期までに翻訳された児童文学135作品を、原作国別にまとめたものです。

3 邦訳資料の外国語原典

外国語の資料を日本語に翻訳した資料が手元にあるときには、日本語版資料の奥付や表紙の裏などに、もとの外国語の資料のタイトルや出版年が記載されている場合がありますので、確認してみてください。また、訳者解説やあとがきなどが付されている場合、そのなかでもとの資料のタイトルなどが言及されることがあります。

もちろん、2で紹介したデータベースや参考図書を用いて、もとの外国語文献を探すこともできます。

4 日本語を外国語訳した資料

日本語から外国語に翻訳された資料を探す際には、以下のデータベースや参考図書を用いて調べることができます。日本の文学作品が外国語訳された資料を探す場合は、国立国会図書館リサーチ・ナビの「[日本文学の海外語訳を探す](#)」のページも参考になります。

〈データベース〉

■国立国会図書館サーチ（国立国会図書館、<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>）

・タイトルから探す場合は、日本語版のタイトルを、日本語またはローマ字表記で入力して検索することができます。「源氏物語」など一部の作品については、「Web NDL Authorities」で「著作」単位の検索を行うこともできます。

・著者名から探す場合は、「Web NDL Authorities」で著者名の典拠形から検索することができます。

■日本文学翻訳作品データベース

(国際交流基金、https://jltrans-opac.jpf.go.jp/Opac/search.htm?s=IC9_d6JaCdalK1PL70dQQk8Nhhb)

・ UNESCO の「Index Translationum」や日本ペンクラブの『Japanese literature in foreign languages』などをもとに、戦後の作品を中心に登録されており、現在も更新されています。

■Index Translationum (UNESCO、<https://www.unesco.org/xtrans/bsform.aspx?lg=0>)

・ 世界で出版された翻訳図書をまとめたデータベースです。1950 年から作成されている冊子版【[阪大所蔵あり](#)】をもとにしており、データベースでは 1979 年～2012 年のものを検索することができます。

■海外で翻訳刊行された日本の児童書

(国立国会図書館国際子ども図書館、<https://www.kodomo.go.jp/search/translated>)

・ 国立国会図書館の分館であり、児童書の専門図書館である国際子ども図書館が収集し、所蔵している、海外で翻訳刊行された日本の児童書の書誌情報を一覧にしたファイルを閲覧することができます。

〈参考図書〉

■伊藤鉄也編『日本古典文学翻訳事典』(国文学研究資料館、2014～2017 年)【[阪大所蔵あり](#)】

・ 日本の上代から近世までの古典文学の英語訳版の書誌をまとめたものです。
・ 伊藤氏はほかにも、『海外における上代文学』(国文学研究資料館、2006 年)【[阪大所蔵あり](#)】、『海外における平安文学』(国文学研究資料館、2005 年)【[阪大所蔵あり](#)】、『海外における日本文学研究論文』(国文学研究資料館、2005 年)【[阪大所蔵あり](#)】を編集しています。これらは、英語圏以外の研究動向も反映しています。

■『Japanese literature in foreign languages 1945-1990』(日本書籍出版協会)【[阪大所蔵あり](#)】

・ 1945 年～1990 年に外国語に翻訳された日本の文学作品と、外国語で書かれた日本文学に関する文献を収録しています。

■『Modern Japanese literature in translation』(講談社、1979 年)【[阪大所蔵あり](#)】

・ 国際文化会館図書室が編纂した、明治期から 1970 年代までの翻訳書の書誌です。

■『Japanese women writers in English translation』(Garland、1989～1992 年)【[阪大所蔵なし](#)】

・ 英訳された日本の女性作家による作品の書誌をまとめたものです。平安期と、19 世紀～20 世紀の作家による作品が収録されています。

■『Moderne japanische Literatur in deutscher Übersetzung: eine Bibliographie der Jahre 1868-2008』(Indicium、2009 年)【[阪大所蔵あり](#)】

・ 1868 年～2008 年にドイツ語に翻訳された近代日本文学の書誌をまとめたものです。

附属図書館は、阪大生のみなさんの学習・研究をサポートします！

附属図書館では、各館の参考調査カウンターを中心に、阪大生のみなさんの学習・研究をサポートしています。学習・研究に必要な文献調査や情報提供をはじめとしたご相談に応じていますので、ぜひお気軽にご利用ください。詳しくは、附属図書館 Web サイトの「[レファレンス・デスク](#)」のページを参照してください。

また、附属図書館 4 館のうち 3 館（総合図書館、理工学図書館、外国学図書館）では、ラーニング・サポートデスクを設置しています。ラーニング・サポートデスクでは、大阪大学の大学院生がラーニング・サポーター（LS）としてみなさんの学習・研究に関するご相談に応じます（対面相談・オンライン相談のほか、フォームからの相談も受け付けています）。LS の専攻や在席時間については、附属図書館 Web サイトの「[ラーニング・サポートデスク](#)」のページを参照してください。

「翻訳資料の探し方」に関連する、LS 作成パスファインダー

タイトル	作成年度	作成者所属（当時）
外国語学習のやる気を高める！	2026	人文学研究科
ペルシア語資料のデータベースと ALA-LC 翻字	2022	人文学研究科
中国語文献の探し方	2021	言語文化研究科
ALA-LC 翻字でビルマ語文献を探す	2021	言語文化研究科
ドイツ語資料のデータベース	2020	言語文化研究科
タイ語資料のデータベース	2020	言語文化研究科
ハンガリー語資料のデータベース（改訂版）	2020	言語文化研究科
分野別レポート入門 文学編	2020	言語文化研究科
ペルシア文学へのいざない	2019	言語文化研究科
ポストコロニアル文学について調べる	2018	言語文化研究科
通訳という仕事	2016	言語文化研究科
「読みやすいロシア文学」選集	2014	言語文化研究科

附属図書館ラーニング・サポートデスクでは、LS の専門性をいかした「テーマ別調べ方ガイド」（パスファインダー）を作成しています。附属図書館 Web サイトの「[パスファインダー](#)」のページで、これまでに作成したパスファインダーをご覧いただけます。